

氏 名：酒井 禎子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 159 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）
副査 菱沼 典子（聖路加国際大学教授）
副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 小松 直子（慶應義塾大学教授）

論文題目：雪国で暮らす高齢がん患者の療養生活

博士論文審査結果

本研究は、人口の高齢化が進む雪国の地方都市にあるがん診療連携拠点病院で医療を受けている高齢がん患者がどのような療養生活を送っているかを記述することを目的とし、エスノグラフィーを用いた記述研究を行った。8 名の高齢食道がん患者、家族を主要情報提供者として参加観察および面接を行い、主治医からも情報を得た。その結果、雪国で暮らす、放射線化学療法を行う高齢食道がん患者の療養生活は、「『いつもの暮らし』を続ける」中に、「『がん』ともうまくつきあっていく」生活様式を組み込んでいくプロセスであった。このことから、高齢がん患者の療養生活においては、「いつもの暮らし」を理解し、療養生活に関する意思決定と生活支援が重要であることが示された。

審査において主に以下が議論され、修正が求められた。結果については、テーマ、カテゴリー、サブカテゴリーの表現を含め、結果の記述が一投的で平板な表現になっており、雪国で暮らす高齢がん患者の療養生活の特徴を説明しきれていない。また、テーマに基づき、カテゴリー、サブカテゴリーが有機的につながっておらず、統合されていない。中心概念である「いつもの暮らし」を主軸にして、テーマ、カテゴリー、サブカテゴリーがつながるように、表現も含めて検討して記述すると共に、その関係性がわかる図を作成し直す必要がある。さらに、すべてのサブカテゴリーを同様のボリュームで記述しているためメリハリがなく、本研究結果のストーリーと伝えたい内容がわかりにくくなっている。テーマに基づくストーリーにフィットするサブカテゴリーを用い、現象に関する解釈が伝わるような記述とすること。

考察については、本研究で明らかとなったことは何なのかを、まず明確に記載して主張し、それに対する考察を加えることが求められた。

以上の指摘に対して、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認が得られた。

本研究は、がん患者の認識と生活の様相を、患者だけでなく、家族、医療者および生活を取り巻く環境を含め、丸ごと捉えて記述した、他に類をみない意欲的な研究であると高く評価された。本研究結果は、がん患者理解において、文化的、包括的視点からの理解の必要性を示すものであり、がん看護学並びに実践への新たな視座を提供するものである。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。